

令和4年度第4回学校魅力強化委員会議事録

開催日	令和4年11月8日(水) 於 白石高校普通科キャンパス会議室
開催時間	15:30~17:00
出席者数	委員7名 事務局6名 教育振興課1名 アドバイザー1名
出席者氏名	委員:江口、岩吉、筒井、古賀、平井、門田、溝口 事務局:中島、平山、小川、北村、鶴田、野見山 教育振興課:細國 アドバイザー:門脇
会議次第	1 会長挨拶 2 議 事
議 事	
<p>(1) 全国コミュニティ・スクール大会報告(主幹より)</p> <p>① 資料説明</p> <p style="padding-left: 2em;">コミュニティ・スクールと学校運営協議会の定義の確認と高校でのコミュニティ・スクール導入の例について説明</p> <p>② 質疑応答</p> <p>Q: 高校での取組例の中に出てきた公営塾とはどのようなものか?</p> <p>A: 玖珠の美山高校には、全生徒無料で利用できる「玖珠志学塾」がある。町が民間に委託して運営している塾で、デジタル教材も活用しながら一人ひとりに学習のプランを提供している。</p> <p>Q: 地域にとって高校とかかわることは大きなメリットがあるが、高校にとって地域とかかわることにメリットはあるのか?</p> <p>A: ① イベントに関わることで生徒の自己有用感の向上につながる。 ② キャリア教育の一環で、地域に出て学ぶことはメリットになっている。学校の中だけの教育だけでは補えないところを地域と関わることにより補うことができ、課題解決の力も向上させることができると感じている。</p> <p>(2) 学校訪問報告(ふたば未来学園高校・磐城高校) (主幹より)</p> <p>① 資料説明(「総合的な探究の時間」についてのみ説明)</p> <p style="padding-left: 2em;">【両校に共通していたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」を企画・運営する専門の担当分掌がある。 ・どちらの学校も共通してどんな生徒を育てたいかのルーブリックを作成し全職員で議論し、目指す像がきちんと共有されている。 ・多くの人に関わってもらっている。特に、ふたば未来では、全職員に指導に関わってもらうだけではなく、メンターとして外部人材を日常的に活用している。2017年からNPO法人カタリバのスタッフが構内に常駐し、学習室を運営している。2019年には「双葉みらいラボ」が開所しカタリバ職員・生徒・地域住民が活動している。 <p>② 質疑応答なし</p> <p>(3) 現状報告</p> <p>① 資料説明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在までの白石高校の地域連携活動報告 2. 第1回志願者数報告 3. 学校魅力化評価システム結果報告 	

② 質疑応答

【商業科が抱えている課題について】

- ・キャンパス制による本来あるべきスケールメリットが感じられないのではないか。
- ・選択肢の多様化により実業高校への魅力が知られていないのではないか。
- ・PCがコモディティ化する中で強みを失っていった。
- ・事務職系就職を好まない時代の流れも逆風になっている。
- ・駅から遠いことによる利便性の悪さも志願倍率が伸びない一因となっている。
- ・商業高校に通うことによるメリットを発信してくほうが良いのでは。
- ・露出を意識した教育をカリキュラムに反映していくことは可能か。
- ・映像関係の機材があるのであれば、企業などの依頼を受けて映像作品などを作ってはどうか。
- ・商業科の名前を変えてみてはどうか。

(4) 今後の方向性について

【地域との連携によって取り組みたい学校の課題】

- ・プロモーションデザインを外部に依頼するのはどうか。学校にとっても地域にとってもプラスになる発信をしていくためには、それ相応のホームページなどプロモーションにお金と時間がかかる。学校側の間人だけで進めていくには限界なのではないか。主軸になって方向性を決めてもらい、それをもとに学校側が活動していくのが得策ではないか。
- ・誰に何を届けたいのか、生徒に向けてなのか保護者に届けたいのかはっきりしていないと発信する内容も決められない。
- ・学校がどのような課題に対して取り組みたいかを話し合い、その課題解決に応じた場所に依頼するようにすれば、町としても協力はできるが、現状その課題がいろんなところに向いているためどのように協力すれば良いかがはっきりしていない。まずは課題の設定が先決ではないか
- ・地域側の背景や課題についても学校側が理解する必要があるので、地域の課題やビジョンを出して見てもらって、相互に共有しながら共通の課題を見つけるやり方もあるのではないか。
- ・地域と学校が連携することは大事という共通認識はある。その中で具体的に何をやっていくかの課題設定を学校の中で話し合い、次の会議で出していき、その課題について地域ができることの知恵を出していくことが望ましい。そのうえできちんとその魅力を発信していくことを意識して取り組んでいく。募集倍率を上げることを目標とせずその手前の魅力的な教育を実現する取り組みをみんなで考える。そのための会議を次回以降開きたい。

【地域の総探に対する関わり方について】

- ・総探に地域とどのように関わっていくのか、どんな人材を必要としているのかを具体的に出すことにより、地域が協力しやすくなる。どのように総探の授業を作り上げていくのかを次回以降話し合えるように学校側で課題として取り上げたい項目などをまとめてほしい。

※次回は、総探を中心としてどのように地域に関ってもらいたい提示し具体的に話し合う

事後措置	朝礼時報告	○	職員会議にて報告	校内 LAN にて広報	職員向け配布物機を利用して広報する。
	その他 ()				